

ほんしょ　つか 本書を使われるみなさんへ

にほんしゃかい　おいて　たぶん　か　か　すす　なか　ば　がいこくせき　ひとびと　う　い　せつよく
日本社会において多文化化が進む中、さまざまな場で外国籍の人々を受け入れ、接触
し、こうりゅう　きかい　こんご　ぞうか　よそう　こと　ぶん　か　てきはいけい
交流する機会は今後、ますます増加していくことが予想されます。異なるぶん　か　てきはいけい
の人々と接していく際に求められるのが、多文化を視る目を客観的に分析する力、そして、
こと　はいけい　も　ものどうし　きょうどうてき　ものごと　つく　あ　ひつよう　たいわ　りやく
異なる背景を持つ者同士が協働的に物事を作り上げていくために必要とされる対話力であ
り、ときに起こりうる摩擦や対立に対して、それが起きた原因を見定め対応していく問題
かいけつりょく　ほんしょ　ちから　こうじょう　め　び　きょうざい　くに　ぶん　か　わく
解決力です。本書は、こうした力の向上を目指した教材です。また、国や文化という枠を
こ　そんざい　ぶん　か　てき　さい　こ　ちきゅう　し　みん　し
超えて存在するグローバルイシューについて、文化的差異を超えて、地球市民としての視
てん　たいわ　ちから　よしな　ほんしょ　おお　もくてき　ひと
点から対話できる力を養うことも本書の大きな目的の一つです。

ほんしょ　あ　じこく　た　こく　じょうきょう　り　かい　くわ　きょうしつ
本書で挙げた12のトピックについて、自国や他国の状況を理解することに加え、教室
の仲間との対話、学び合いを通して「そんな見方があったのか」といった、あら　はっけん
生まれることで物事やある問題を捉える「物差し」がより多く、豊かになっていくことを
ねが　せい　かい　と　お　お　ふく　ほんきょうざい　とくちょう
願っています。正解のない問いが多く含まれていること、それも本教材の特徴です。その
よ　う　な　と　たい　い　みな　せい　かい　さが　ひつ　よう　は　あ　り　ま　せ　ん　。　で　も　、　じ　ぶん　じ　し　ん　こ　た　さ　が
ような問いに対し、皆さんは正解を探す必要はありません。でも、自分自身の答えを探し
てほしいと思います。そして、それぞれの答えを教室の仲間と共有してほしいと思います。
また、自分自身の答えを探すために仲間と対話をしてください。そのとき大切にしてほしい
ことは、き　く　こ　と　で　す　。　じ　ぶん　の　かんが　を　つ　た　え　る　こ　と　、　つ　た　え　る　か　も　たいせつ　き
また、他者を理解するために非常に重要なことだと思います。自分と考えや主張が異なる
仲間　の　発言　も　ま　ず　は　し　っ　か　り　う　け　止　め　ま　し　よ　う　。　対　話　を　進　め　る　中　で　、　互　い　の　かんが　や　主　張　に
へん　か　が　み　ら　れ　る　か　も　し　れ　ま　せ　ん　。　だい　さん　の　かんが　が　う　か　の　う　せ　い　も　あ　り　ま　す　。

ねん　がつ　にち　に　ほん　ご　きょうい　く　すい　しん　かん　ほうりつ　こう　ふ　し　こう
2019年6月28日、「日本語教育の推進に関する法律」が公布、施行されました。こ
の法律では、基本理念として、学校の児童生徒や留学生、各分野の技能実習生、難民など、
さ　ま　ざ　ま　な　た　ち　ば　ざ　い　り　ゆう　が　い　こ　く　じ　ん　に　ほん　ご　きょうい　く　う　き　かい　さい　だい　げん　か　く　ほ　う　た
さまざまな立場の在留外国人らの日本語教育を受ける機会を最大限確保することを謳って
います。本書がそうした機会を広げるきっかけになれば幸いです。

きょうしつ　まな　あ　まな　たび　たの　い　の
教室での学びをつくり上げるのは、みなさんひとりひとりです。学びの旅が楽しいもの
になりますよう、祈っています。

2022年12月
まつ　お　しん
松尾　慎